

日時：令和 7 年 12 月 3 日（水） 15：00～ 17：00

方式・場所：日本応用地質学会事務局（WEB 併用）

出席（対面）：船山部会長、大谷幹事、宇佐美委員（3 名）

出席（WEB）：堀幹事、磯部、佐伯委員（3 名）

欠席（委任）：菅野、塩崎、清崎、太田、福田、山本、塚本 各委員（7 名）

不明：竹村副部会長、池見、島村 各委員（3 名） 計 16 名

その他：稲垣顧問（1 名）

議事録

1. 部会長挨拶

- ・出欠を確認した。

2. 令和 7 年度第 4 回部会議事録案の確認

- ・議事録の内容について確認した。（堀幹事）

3. 各種報告

1) 部会委員の公募の件（船山）

- ・新任として塚本委員（アジア航測・大阪勤務）が 11 月 11 日の理事会で承認された。

塚本委員が 10 月の研究発表会で盛土に関する発表を行っていた。船山部会長が研究部会の後に声掛けをして、公募に応募したのが経緯である。

- ・新任の塚本委員を追加して名簿を更新して、NAS サーバーに保存している。

2) 理事会報告

3) 研究発表会参加報告（参加者：船山（10/8-10）、大谷（10/8）、宇佐美（10/8-9））

①委員公募ポスター掲示

- ・ポスター：ふるさとの石、再生可能エネルギー、研究部会員公募のポスターを掲示した。コアタイムには来場者が多かった。ポスターについては適宜補足説明を行った。
- ・チラシ（ポスター縮小版、ふるさとの石講演論文）：ポスター脇に各 100 部を置いたところ、ポスターの縮小版 39 部、ふるさとの石縮小版 21 部を持ち帰っていただいた。

②ふるさとの石ポスター発表

- ・何名かご説明し興味を示していただいた。ふるさとの石は興味を持つ来場者が多く、地質学会の県の石との区別、ふるさとの石シートの公表についての質問があった。

③応用地質学の発展に向けたコラボレーションセミナー

- ・大谷幹事が応用地質学と北海道ワインのコラボレーションについて話題提供を行った。
- ・北海道大学からは北海道ワイン教育研究所の曾根教授から北海道ワイン産地についての発表、農学研究員柏木講師から北海道のワイン畑の土壌についての講演があった。
- ・山崎ワイナリー代表の山崎さんからブドウの栽培について興味深い話題提供があった。山崎さんは、室蘭工大の博士課程に在学中で土砂災害について研究している。
- ・ワイン試飲会は盛況であった（大谷幹事は所用のため中座）。
- ・ダイバーシティ推進委員会では、来年は長岡で研究発表合会を予定しており、日本酒を取り上げる案などの話題も出ている。

④複合災害セッション（北田副会長）

「複合災害を考える」で活発な議論があった。

- ・「複合」の視点をどう定義するか（論点）が課題、トリアージ（優先度）が大事である等の議論があった。
- ・アウトリーチが重要という議論があった。（災害伝承碑の活用、学会としてできることから始める（応用地質学をわかりやすく一般市民の防災教育など）、など）

2) 環境地質研究部会 HP の更新（磯部、舩山）

環境地質研究部会 HP の更新を行い、今後の更新について審議した。

- ・ R7 議事録案の掲載、閲覧について更新した。
- ・ 再生エネルギーシリーズの体裁、ポスターがダウンロードできるように更新した。今後、このポスターは研究発表会で発表のポスターに差し替える。
- ・ ジオ・メリットシリーズの精査・掲載について更新した。
- ・ 今後、環境地質研究部会紹介のポスターと委員公募のポスターを委員会 HP の上部に掲載するように更新する。
- ・ 委員公募の GoogleForm が分かりにくいので、学会 HP に委員公募のページを設置するよう総務委員会に提案する。

3) 他委員会の報告（教育普及、ダイバーシティ等）

- ・ 応用地質学教育普及委員会から技術者倫理講習会のリマインドがあった（大谷幹事）。

4. 再生可能エネルギー連載

- ・ JPGU の環境災害対応委員会に舩山部会長が今年度から委員を担当している。
- ・ JPGU の 2026 年大会で、環境災害対応委員会として一般市民対象のセッションに参加を予定しており、テーマの再生可能エネルギー利用の課題に関連性の高い、応用地質学会の参加を依頼された。学会誌に連載した再生可能エネルギーの話題提供を予定している。

5. WG 活動報告

(1) WG 概要

環境地質研究部会 ワーキンググループ 活動状況					
グループ番号	グループ名	担当 ○：リーダー	活動概要	R6計画 2024	R5実績 2023
WG-A	ジオ・メリット研究グループ	○宇佐美委員、清崎委員 ○山本委員、池見委員、佐伯委員 堀崎委員	地域の地質の恩恵や防災上の留意点について、一般市民への啓発活動や地域産業等への貢献に関する研究を行う。	・公園展示の石や建築物石材などの市民への解説 ・公園関係者への防災教育協力	・都立武蔵野の森公園を訪問し、公園展示の「ふるさと石」の補足解説や防災活動への協力について継続的に意見交換
WG-B	人工構造物研究グループ	○大谷幹事、竹村副部会長 磯部委員 ○堀崎幹事	道路等のインフラや盛土等の人工地層に影響を及ぼす地質条件に関する研究を行う。	・能登半島地震での被害との関係について研究、研究発表会で発表	・「神奈川県古く代東海道」の研究報告 ・盛土規制法の話題提供
WG-C	自然環境研究グループ	○舩山部会長、竹村副部会長、島村委員、佐伯委員	自然環境を活用した応用地質技術に関する研究を行う。		
WG-D	再生可能エネルギー研究グループ	○清崎、舩山、宇佐美、堀崎、堀	再生可能エネルギーについて、応用地質分野とかわりのある事項について研究を行う。	・再生エネルギー学会誌連載のため、研究発表会で発表	・令和5年9月9日（土）に神奈川県相模川流域において巡検 ・第12回2023/4月号掲載 海洋エネルギーを利用した発電技術と応用地質 ・洋上風力発電の海底地盤調査について、田中氏（基礎地盤コンサルタンツ）より話題提供

(2) WG 活動状況

1) WG-A ジオ・メリット研究グループ

①武蔵野の森公園関係（企画、防災支援の件等）（佐伯、宇佐美委員、大谷幹事）

① -1：「キッズ防災フェスタ」フォーラムについて

- ・佐伯委員が、11/16 に公園担当者と 12/14 開催の「キッズ防災フェスタ」について打合せを行った。
- ・防災フォーラムは子供を対象としたイベントであるが、保護者、小学校高学年以上の児童を対象として会場の管理室のロビーでイベントに協力する。
- ・当日は船山部会長、堀幹事、大谷幹事、佐伯委員、宇佐美委員が対応予定であり、ほかの参加者については、佐伯委員からメールで問い合わせをする。
- ・武蔵野の森公園管理事務所に 10 時に集合し。開場の 11 時まで会場の準備を行う。
- ・PC は船山部会長、堀幹事、大谷幹事が持参し、佐伯委員がタブレット持参する予定である。大型のモニターは管理事務所のモニターを 1 台、可能であれば 2 台使用する。
- ・地図の読み方の資料を配布する。
- ・11 時～14 時は、地図の読み方（地理院地図）、気象庁アプリの使い方、ハザードマップの読み方などの質問を受けて、PC と大型のモニターで大谷が説明する。公園では大判のハザードマップを用意する。
- ・お昼休みは人が少ないので、適宜休憩する。
- ・防災市民講座を 14 時～15 時に開催する。
- ・①災害のメカニズム(豪雨災害・富士山の噴火を含む)、②地域の地形・地質と災害リスク、③災害に備える、の各 15 分 3 部構成として、各部で ppt のスライド各 5 枚作成する。資料は配布しない。
- ・各部の担当は、①宇佐美委員、②船山部会長、③佐伯委員とする。
- ・公園担当者から応用地質学会宛に後援依頼書を提出してほしいので、佐伯委員が公園担当者に依頼する。依頼書に公印は不要である。
- ・写真撮影は堀幹事の担当とするが、各自写真を撮影して、防災イベントの結果は学会誌に報告する。

① -2：公園開催の見学会について

- ・3 月 20 日頃の見学会に、多摩六都科学館の参加者が合流したいとの情報があった。

②「ふるさとの石」解説シート＋日本地質図の進捗状況（佐伯委員、大谷幹事、堀幹事、宇佐美委員、清崎委員、船山部会長）

- ・支部への協力依頼の状況（船山）。各支部で作成している。支部によって対応が違うので、細部は具体的に話をする必要がある。
- ・解説シートの管理表（船山）（課題）公園の石を B、公園にない石を A として区分している。
- ・部会で追加すべき都道府県や石：栃木県（大谷石）、山梨県（白鳳石）などを検討する。
- ・ふるさとの石の対応、支部への依頼予定は、以下のとおりである。
 - ・北海道：未作成であるため支部に依頼予定
 - ・栃木県：佐伯委員が作成予定
 - ・山梨県：船山部会長、佐伯委員が作成予定
 - ・石川県、富山県：中部支部に依頼予定
 - ・三重県、岐阜県：中部支部に依頼予定
 - ・関西：関西支部に依頼予定
 - ・中国四国：支部に依頼済

- ・九州：清崎委員が作成予定。
- ・ふるさとの丘の石の解説が誤っていても都の設置物であるので訂正はできない。ふるさとの丘の石の説明を文献に基づきチェックし、今後、QR コードで解説を作成する方針とする。
- ③「ジオ・メリット」学会誌アラカルトシリーズのスキャンニングと精査、リライト
- ② -1：スキャンニング予定について 熊谷事務局長が出版社に PDF 原稿について問い合わせる。12 月号の発刊後に対応。出版社にない号は、事務局の学会誌を手分けしてスキャンする。
- ③ -2：以下リライトする場合の分担（当面は、スキャンニングデータの精査、HP 掲載）
 - ・過去の連載についてはスキャンニングが終わった時点で研究部会においてチェックしてから、HP に掲載する。
 - ・巻頭言（舩山）：投稿時期の目安について 4 月以降に話題提供
 - ・お酒と地質（舩山）：つくばのワインの話題を入れたい。ダイバーシティとの連携（北海道ワイン）。
 - ・石材（大谷幹事）：笠間石切り場巡検はどうか
 - ・温泉・地熱資源、エネルギー（清崎委員）
 - ・地下空間利用（塩崎委員）
 - ・他（宇佐美委員）
- 2) WG-B 人工構造物研究グループ（インフラ、盛土等の人工地層など）
 - ・インフラ（海岸隆起と人間活動）の話題提供等（大谷幹事）：特になし
 - ・人工地層の話題提供等（磯部委員、舩山）：特になし
- 3) WG-C 自然環境研究グループ
 - ・話題提供等（舩山）：特になし
- 4) WG-D 再生可能エネルギー研究グループ
 - ・JPGU 発表予定（前記）
- 5) 各 WG 活動・報告スケジュールについて
 - ・次回部会以降順次検討する。

6.話題提供、巡検等

- (1) 巡検
 - ・R7/9/6（土）つくばワインヤード、採石場の部会だよりの投稿 原稿受理。
- (2) 話題提供
 - ・特になし

7.予定その他

1) 次回研究部会日程

2 月 4 日（水）15：00～17：00

添付資料

資料 1 R7 第 5 回議事次第

資料 2 R7 第 4 回部会議事録（案）

資料 3-1 理事会資料抜粋
資料 3-2 名簿
資料 3-3 研究発表会写真
資料 3-4 委員公募ポスター
資料 3-5 ふるさとの石講演論文
資料 3-6 ふるさとの石ポスター
資料 4-1 JPGU2026 プログラム
資料 4-2 JPGU 環境災害委員会参加セッション要旨（気候変動と再生エネルギー）
資料 5-1 武蔵野の森公園防災フェスタ関係資料
資料 5-2 ふるさとの石関係資料
資料 5-3 ジオ・メリットシリーズ関係資料
資料 6-1 巡検報告（部会だより）
その他

以上